

ホーソン・メルボルン英語学校

— プログラムの概要 —

本プログラムでは、英語クラスは立命館の学生だけで構成されるのではなく、習熟度別に編成し、他国からの留学生と共に学習します。経済学部短期留学では最長の5週間の滞在で、留学生との交流を通じ英語を話す機会を多く設けたコースです。また、ビジネス英語の集中講義もあります。現地学生やホームステイ先との交流、海外での生活体験も目的としたプログラムです。

◆派遣先機関の紹介

ホーソン・メルボルン英語学校は、オーストラリアでトップレベルの大学の1つであるメルボルン大学の提携英語学校です。キャンパスには十分なスペースがあり図書館やコンピュータ室、ジム、カフェテリアなどの設備を備えています。ホームステイ、アクティビティ、カウンセラー等の専任スタッフが対応します。

◆過年度スケジュール例【参考】

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
8:30-9:30	Speaking	Speaking/Listening	Grammar	Speaking/Listening	Speaking
9:30-10:30	Listening	Reading	Speaking	Reading	Reading
10:30-11:00	Break				
11:00-12:00	Independent Learning Centre	Independent Learning Centre	Independent Learning Centre	Independent Learning Centre	Independent Learning Centre
12:00-13:00	Reading	Writing	Reading	Computer Laboratory (CALL)	Listening

※スケジュールは週によって異なる場合があります。

◆授業・実習の内容（2019年度実施プログラム体験談より一部抜粋）

ホーソン・メルボルン英語学校は *reading, writing, speaking, listening* のカすべてを向上させようという理念があります。最初の2週間は立命館大学の生徒のみでクラスが作られ授業が行われました。日本の授業とは大きく違い、話し合いの時間が多くありました。Reading は大学の授業よりも易しく感じましたが、listening はかなり難しかったように思えました。3週間目からはそれぞれのレベルに合わせ、いろんな国の人たちとの混合クラスになりました。ここでも基本的には最初の2週間と授業内容は変わりませんが、海外の人との会話なので英語しか使えず、コミュニケーションがとても大変でした（当たり前ですが笑）。

◆留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと(2019年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

積極的に自分から話しかけることがいかに重要かを理解できました。例えば、私のホストファミリーはオーストラリアフットボールのファンで、毎週末は必ずと言っていいほど試合をテレビで見っていました。ルールは当初よくわからなかったので質問をたくさんしました。もちろん調べればわかるし、日本語で読んだ方が勘違いもほぼないとは思いますが、それは意味があまりないと思ったので、自分で聞いて理解することに努めました。他にもカフェの情報などは、自分たちで調べたものもありますが、英語学校の先生やホストファミリーに聞いて行った所もたくさんあります。別に間違えたってかまわないと思います。僕も質問の意味を勘違いし会話を成り立たせなくしたことが何回もありましたし、聞き間違いや勘違いで間違えた場所に行ってしまったこともありますが、それもいい経験になりました。誰かが話しかけてくるのを待っているのは時間だけが過ぎて行ってしまいます。どんなことでも聞いてみる、そう心がけることを学べたと思います。

◆後輩へのメッセージ・アドバイス(2019年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

このプログラムは語学力向上に加え、自分次第で様々な経験ができます。5週間という期間なので、長期留学や語学留学を考えている人だけでなく、海外に興味がある、海外で少し生活してみたいと考えている人にもおすすめのプログラムです。



U.S.A.

ポートランド州立大学

— プログラムの概要 —

アメリカオレゴン州のポートランドにある、ポートランド州立大学(Portland State University)にてESLの授業の他、アメリカ文化、ビジネスまたは異文化コミュニケーションの授業を受講します。最大15名の少人数制で、PSUの学生がサポートしてくれます。プログラム期間中は、大学内のジムなどの施設が自由に利用できます。教室での授業の他、ポートランド周辺の文化的・教育的によく知られている場所を訪問したり、現地進出している日系企業や世界展開しているアメリカ企業を訪問し、従業員から直接話を聞く機会もあります。また日帰りアクティビティも含まれています。期間中は、ホームステイと学内寮両方での滞在が体験できる、非常に魅力的なプログラムとなっています。

◆派遣先機関の紹介

ポートランド州立大学(Portland State University)は、世界および全米各地から訪れる 28,000 名の学生を抱え、オレゴン州最大の学生数を誇ります。8 つのスクール & カレッジから構成されており、学士、修士、博士の 225 の専攻を提供しています。

キャンパスはダウンタウンに位置しており、ショップやカフェ、レストラン、劇場、美術館等が並び活気があり、生活しやすい環境が整っています。

◆スケジュール例【参考】

Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 1-2:00pm American Business Class 2:00pm Intercultural Communications: Downtown Walk 5:00pm Go home by bus	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 1-3:00pm Business Class 1-3:00pm Intercultural Communications Class 3:30-4:00pm Rating Trip Review 5:00pm Go home by bus/MAX	9:30am Group 1: Meet school bus Visit Woodburn Factory Stores 1:00pm Leave the shopping mall 2:30pm Group A: Excursion to Columbia River Gorge – visit hike Multnomah Falls 5:00pm Leave Columbia River Gorge	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 1-3:00pm Business Class 1-3:00pm Intercultural Communications Class 3:30pm Homestay Check-in 5:00pm Go home by bus	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 1:00pm Intercultural Communications Class 1:30-3pm Visit to Med Teams International 5:30 Go home by bus
9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 11:45-12:45pm American Business Class: Pizza Lunch with PSU Business students 1-3:00pm Intercultural Communications Class 5:00pm Go home by bus	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 1-3:00pm American Business Class 12:30pm IC Class meets at Urban Plaza 1-3:00pm Visit 5:00pm Go home by bus	6:45am Meet at buses 7:00am Board bus, Depart PSU 10:45am Arrive in Seattle Baseball buses goes to the Original Starbucks with Staff 12:00pm Baseball groups meet with Baseball bus to Game (parking included) 1:10pm Seattle Mariners vs NY 4:45pm Depart Safeco Field for PSU 5:30pm Free Time Students 9-10:00pm Buses arrive on PSU	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 2:30-4:30pm Intercultural Communications Class 3:00pm Free Time 5:00pm Go Home	9:00-11:30am American Conversation Class 11:30am Lunch 12:30-3:00pm American Business Class Lecture by Makoto Yoshino, owner of Kale Restaurant 1:00pm-3:00pm Intercultural Communications Class 5:00pm Go Home

◆ 授業・実習の内容 (2019 年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

午前中はビジネスの授業があり、マーケティングを学びました。課外授業として、味の素、Intelといった日系企業を訪問し、その地で働く日本人の方々とお話を通して、自分の将来について考える良い機会になったと思います。習ったことをもとに、グループごとに自分たちで新しくビジネスを考え、それについて発表を行いました。午後はアメリカの文化に関する授業がありました。この授業は日本での授業形式とはかけ離れたもので、みんなで英語で議論したり、ゲームのようなアクティビティを通して文化を学んだり、街の人にインタビューする課題がありました。先生はとて熱意のある方で、考えること、自分の意見を英語で述べることを求められました。初めは少し戸惑いもあり大変だと感じたこともありますが、毎日いろんな新しいことを吸収することができて、とても充実していました。

◆留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと (2019 年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

自分自身がモチベーションを保って、このプログラムに対して積極的な姿勢でいることが大切だと気づきました。そういうことを心掛けることで、いい経験ができ、たくさん学ぶことができたのだと思っています。英語力も、ポートランドに来て初めの頃よりも少しは成長したように感じます。特にリスニングとスピーキングは日本で生活しているよりも鍛えられると思います。また、グループのみんなでたくさん準備したり、練習したりしてプレゼンの工夫の仕方などが身についたと思います。日本での普通の授業でも、英語でのプレゼンの機会は多いので、この研修で学んだことはこれからも生かしていきたいです。



大連外国語大学 1 学期間 / 2 学期間 (1 学年間)

— プログラムの概要 —

本プログラムでは、単なる外国語学習に留まらず、中国語による経済の学習や、中国経済あるいはアジア経済の実状をリアルに把握し、参加学生の学部での研究テーマ・計画を豊富化し、帰国後の学習あるいは大学院への進学、国際社会への進出などに向けてモチベーションをさらに高めることを目的としています。本プログラム参加者には、用意されたカリキュラムに沿った学習にとどまらず、自主的な学習・研究成果を期待します。

■1 学期間プログラム

語学力向上を基本に、大連外国語学院が用意するプログラムに参加します。基本的に漢語言与中国文化進修課程の速成班に所属し、語学力に応じたクラスを受講します。語学力に応じて、経済・経営系の専門科目を履修することもできます(HSK5 級程度の語学力が必要)。

■2 学期間(1 学年間)プログラム

最初の6ヶ月間は語学力向上を基本とし、大連外国語学院が用意するプログラムに参加します。基本的に漢語言与中国文化進修課程の速成班に所属し、語学力に応じたクラスを受講します。6ヶ月終了後に一定のレベルに達していることを前提に、後半は、中国語による経済学の学習プログラムにも参加します(HSK5 級程度の語学力が必要)。ただし、中国語能力が一定水準に達していない(専門科目を中国語で履修できるレベルにない)と判断した場合は、帰国するか、もしくは担当教員と相談のうえ、引き続きプログラムに参加できる場合もあります(後半に修得した科目の多くについて、帰国後に立命館大学で単位認定されない可能性があります)。

◆ 大連外国語大学でのカリキュラム例【参考】

漢語言与中国文化進修課程(漢語進修生)

<速成班>

初級:精読・聴力(リスニング)・口語

中級:精読・聴与説・閲読・中国文化、翻訳

上級:精読・会話・閲読・作文・視聴与口語・翻訳・新聞読解

選択科目:中国地理、中国歴史、中国語文法、中国民間芸術、中国書画、太極拳、武術、中華料理、中国民間楽器

中国言語専攻本科(普通進修生)

第二学年編入(HSK3 級以上):

中級中国語・聴与説・読解・新聞用語基礎・視聴

第三学年編入(HSK6 級以上):

<国際貿易経済方面>

上級中国語・上級会話・経済学・中国概況・現代中国経済・中国対外貿易など

<第三学年以上の選択科目>

国際貿易・国際市場経営・涉外企業管理・涉外経済法など

◆ 授業・実習の内容(2018 年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

基本的に授業は8時30分から90分×2コマ行われ、午後は選択授業をとっていないかぎり自由時間となります。選択授業は留学生の場合2つまで選択できるようで、私は日中翻訳と発音の授業をとりました。授業内容はクラスによって先生や教科書などが違うのですが、私のクラスでは、精読(長文読解)、口語(スピーキング)、閲読(HSK5級で出題されるような短文読解)、聴力(リスニング)の授業が行われました。また、授業はすべて中国語で行われました。テストは中間と期末の二回あり、授業によっては小テストや宿題、発表などがあります。最初は先生の早口の中国語に戸惑いましたが、先生は優しく、質問すれば分かりやすく教えてくれるので、学習面の不安はあまりなかったです。

◆ 後輩へのメッセージ・アドバイス(2018年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

留学する目的を明確にして、その目的を達成するためにどのようなことすればいいか事前に準備しておくことです。私は語学力の向上を目的にしましたが、具体的な目標は持っていませんでした。しかし、留学すれば勝手に成長するわけではなく、授業も無難にこなすことも可能で、何も成長せずに留学を終える可能性もあります。そのため、毎日現地の人と話す、授業で必ず質問するといった具体的な目標を立てていたほうがより成長できていたと感じます。

海外フィールドワークプログラム



THAILAND

英語で学ぶタイの地域開発とツーリズム

— プログラムの概要 —

《タイ・メコン地域の開発と環境》

タイは現在、豊かな文化的社会的背景と日本など外国との経済交流を基礎に、アジア経済発展の重要拠点となっています。本プログラムでは、計7回の事前・事後講義を前後にはさんで、夏期休暇中に2週間程度の現地訪問を実施し、タイの地域開発の課題と観光振興について学びます。国際協力機関、現地のNGOや地方機関、農村地帯など、通常はなかなか訪れることのできない場所にも出かけ、現地の人々とは英語で議論を重ねながら観光振興(エコツーリズム)と開発、高齢化社会問題、地域格差是正などについて考えます。

本プログラムは、タイを代表する研究機関・大学院大学である、タイ国立開発行政研究院(NIDA)の協力を得て、1998年以来実施されています。2014年度からはタイ東北の基幹大学であるコンケン大学にも協力を得て、NIDA、コンケン大学の学生・大学院生と共にLINEグループなどのSNSも活用しながら英語で行うフィールドスタディを重視し、極めてユニーク且つ充実したプログラムです。

◆過年度スケジュール例【参考】

Date	Activities
Day 1	Osaka 11:45 to Bangkok 15:45 (TG623) 快適な直行便
Day 2	Visit JICA Thailand office and NIDA (National Institute for Development Administration) タイにおけるJICAの取り組み、タイ政府の観光振興の課題を学ぶ
Day 3	AM: Free Time PM: Bangkok to Khon Kaen 快適なゆったりシートのバス移動、途中で寺院参観も
Day 4	Orientation at Khon Kaen University (英語によるエコツーリズム等の講義)
Day 5	Field study part 1 (有機農業による農村振興を学ぶ)
Day 6	Field study part 2 (タイの一村一品運動を学ぶ)
Day 7	Field study part 3 (高齢化社会と農村振興の課題を学ぶ)
Day 8	AM: Cycle Tourism experience エコツーリズム体験 PM: Free time
Day 9	Homestay experience (Only 1 night) グリーンツーリズム体験 (民家に宿泊体験)
Day 10	AM: Homestay experience グリーンツーリズム体験 PM: Back to Hotel
Day 11	AM: KKU projects WHOと大学が取り組む保健衛生プロジェクト等を学ぶ PM: Field study summary グループに分かれタイの学生と英語でプレゼンを準備
Day 12	AM: Presentation at Khon Kaen University タイの先生、学生に英語でプレゼン PM: Khon Kaen to Bangkok Bangkok 23:50 Overnight flight (TG622)
Day 13	Osaka 06:50AM

◆授業・実習の内容 (2018年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

タイに着いてまずNIDAで講義を受けたり敷地内を見学したりしました。日本の地域発展の事例をNIDAの教授と学生の前で発表し質問や意見を貰いました。その後コンケンに移動しNIDAに加えてコンケン大学の教授と学生と共に実習を行いました。2つのチームに分かれそれぞれ訪問する村や施設での質問事項を出し合いまとめました。フィールドワークは8つの村や施設を訪問しました。このうち訪問1日目はホームステイをして実際に村での生活を体験しました。日本とは全く異なる生活を味わうことができ、シャワーが水しか出ないという貴重な体験もできました。このプログラムでは座学だけではなく現地を訪問し話を聞き自ら体験することが出来るため、座学だけでは発見できないことを身をもって感じる事が出来たと思います。

◆プログラムに参加してよかったと思うこと (2018年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

このプログラムの他と違う点は、現地について理解することに加え、社会に出てからも必ず必要となる要素を身につけることができる点です。具体的には、行動記録をとることです。現地の状況が行った経験のない人にも伝わるように詳しい状況を記録します。住所、首都や主要都市からどのくらい離れていて何時間かかるのか、交通手段、気温、湿度、高度、村の人口、人柄など、多くの項目があります。これらは日本へ帰国後にフィールドワークの結果を他者に伝える情報として非常に重要な要素であり、将来、海外出張などの際、必ず必要になります。そういった将来を見据えた上で必要な能力を身につけることができる点がこのプログラムの一つの大きな魅力です。

海外インターンシッププログラム



UAE Abu Dhabi

アブダビ石油株式会社 アブダビ鉱業所 (ADOC)

- プログラムの概要 -

アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所を中心にインターンシップを行い、「世界最前線のエネルギービジネス現場で働く人とその仕事を学ぶ」ことを目的とします。アブダビ石油株式会社アブダビ鉱業所は国籍が数十カ国以上の社員で構成されており、多様な背景を持つ社員との就業経験を行います。

◆ 過年度スケジュール【参考】

日付	曜日	スケジュール
8/24	土	日本出国
8/25	日	現地到着・インターンシップ開始
8/26	月	インターンシップ
8/27	火	インターンシップ
8/28	水	インターンシップ
8/29	木	インターンシップ
8/30	金	休日
8/31	土	休日
9/1	日	インターンシップ終了・現地出発
9/2	月	日本帰国

◆ 事前説明会(合格発表後に詳細を連絡します)

6月～7月上旬 アブダビ石油株式会社東京本社にて事前説明会がある予定です。
インターンシップに関わる説明、学生発表、その他事務連絡・質疑応答を予定しています。

◆ 過年度インターンシップの様子



◆ 留学・実習を通して身についたこと・印象に残ったこと(2019年度実施プログラム体験談より一部抜粋)

このインターンシップを通して身についたことは、石油に関する知識はもちろんですが、自分からアクションを起こすかと相手と話し、受け入れる力を身につける事が出来ました。現地では自分から質問しないと分からないままで、自分から意思表示をしないと相手もアクションを起こしてくれません。異国の地で自分から声を出して何かを伝えることは勇気のいることで、出発前の私は奥手でそれが少し苦手でした。しかし、分からないことを教えてほしいと伝えたり、自分の意見を伝えたり、相手へ自分の意思を伝える事が出来るようになりました。きっと自ら動かなければ、このプログラムがこんなにも充実したものになっていなかったと思います。

そして相手を受け入れる力は、それぞれの方が様々なバックグラウンドを持っていて、私が出会った人にもシリアから来た人やムスリムに改宗された方など様々な方がいらっしゃいました。日本では出会うことのない人々との出会いは驚いたり、バックグラウンドを聞いて戸惑ってしまう事もありましたが、相手と話し、意思疎通をする事で相手を受け入れる力がより身についたと感じます。